

NAA Athletics Awards 2024

天皇盃 第30回 全国男子駅伝 優勝 祝賀会



1区濱口→2区増田 中日新聞社

3区吉岡→4区石川 信濃毎日新聞 2025年1月20日

5区佐々木 中国新聞社提供

【VII たすきの流れ】

1区濱口が安定した走りですラスト200mでトップに立ち、区間記録にあと2秒の好走。5000m U20世界Ch9位、佐賀国スポ優勝の貫禄を示した。2区宮城と3秒差で走り出した増田は、宮城を引き離れたものの福島に肉薄されたが、3秒差で繋いだ。3区吉岡は福島に逆転され、6.8kmで第2グループへ、しかし粘りを見せ、トップ福島とは24秒差、千葉には22秒リードし7位で石川へ。4区石川はスタート直後に6位埼玉、5位青森を捉え、区間3位となる快調な走りですトップ福島とは26秒差、2位福岡には1秒、3位佐賀と同タイムの4位で佐々木に託した(チームタイムは昨年より6秒遅れ)。5区佐々木は、最初の1kmを2分39秒の快調なペースで走り、2.1km地点でトップ福島を逆転し、吉岡の持つ区間記録を20秒も更新し、最優秀選手賞に輝いた。2位佐賀には1分4秒、3位千葉には1分19秒の大差を付けた(チームタイムは昨年を39秒上回った)。6区中澤は、昨年の経験を生かし安定した走り、千葉に12秒、福島に10秒の勝ち、2位埼玉には1分25秒、4位千葉には1分31秒の差を付け伊藤に繋いだ。7区アンカー伊藤は、スタート直後こそ後ろを振り返る緊張した面持ちだったが、リズムカルな走り、危なげなく右手を4本差し出すポーズでフィニッシュした。

【お礼】 団長 代表理事・会長代行 内山了治

大会史上初となる4大会連続・11回目の優勝を収めることができました。これも偏に、長野県知事阿部守一様はじめ大勢の県・県議会・県スポーツ協会、信濃毎日新聞社並びに信州駅伝サポート会の皆様方、そして、地元在広島信州県人会、近畿・京都・名古屋長野県人会他多くの皆様方の厚いご支援の賜であり、心から御礼申し上げます。また、日頃から地域の小学生、中学生をご指導されるコーチや保護者をはじめご関係の皆様のご指導ご支援により、当協会の普及強化の基盤があることに改めて感謝申し上げます。今後とも皆様のご支援ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。本日はありがとうございます。

副団長 駅伝部長 丸山健志

今回の優勝はこれまで駅伝に携わった多くの先輩方や地域の小中学生指導者の地道な努力が土台になって、そこに県・地域・信濃毎日新聞社様はじめ多くの企業様、駅伝サポート会のご支援、県民の皆様の高い関心と応援の後押しにより、選手が「喜びと感謝の思い」を込めたタスキを繋ぎ、それを栄光のフィニッシュまで届けてくれました。大きなご支援、ご協力、応援ありがとうございます。大会終了直後から第31回大会に向けスタートし、常に皆様への感謝の気持ちをお忘れずに12回目の優勝を目標に向け励んでいます。今後ともよろしく願い申し上げます。

監督 高見澤 勝

今大会の目標として掲げておりました「長野県チーム初の4連覇」と「VII」を、多くの方々のご支援ご声援のおかげで達成できました。ありがとうございました。大会史上初の4連覇となりましたが、今年のチームの頑張りだけではなく、ここまで携わってくださったスタッフの方々や選手の皆さん、歴史と伝統を作ってくれた方々、ご支援ご協力をしてくださった方々、本当に多くの方々のおかげで偉業を成し遂げることができました。まさに「チーム長野」の勝利です。今後も「チーム長野」の想いを大切にしていきますので、引き続きご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。



6区中澤→7区伊藤 信濃毎日新聞 2025年1月20日

区分	氏名	所属	学年	出身学校
一般	*伊藤 大志	早稲田大学	4年	赤穂中・佐久長聖高
一般	花岡 寿哉	東海大学	3年	白馬中・上田西高
一般	吉岡 大翔	順天堂大学	2年	川中島中・佐久長聖高
高校	濱口 大和	佐久長聖高校	3年	徳島県羽ノ浦中
高校	佐々木 哲	佐久長聖高校	3年	愛知県愛工大名電中
高校	篠 和真	佐久長聖高校	3年	埼玉県上平中
高校	石川 浩輝	佐久長聖高校	3年	埼玉県原山中
中学	中澤 侑己	安曇野市立堀金中学校	3年	
中学	筒井 陽	飯田市立高陵中学校	3年	
中学	増田 大誠	真田クラブ(真田中学校)	3年	
中学	三澤 岳士	安曇野市立豊科北中学校	2年	
役職	氏名	長野陸協役職・勤務先		
団長	内山了治	代表理事会会長代行		
副団長	丸山健志	駅伝部長・丸山農園		
監督	高見澤勝	強化コーチ・佐久長聖高校		
コーチ	牛山通高	駅伝部コーチ・中野土建(株)		
コーチ	宮入修一	駅伝部コーチ・竹内製作所		
コーチ	横打史雄	常務理事 普及強化委員長・長野東高校		
コーチ	中津敦喜	強化部長・須坂創成高校		
コーチ	掛川和彦	理事 道路競技部長・丸子修学館高校		
コーチ	今村善隆	ジュニア、駅伝部コーチ・緑ヶ丘中学校		
コーチ	小島康弘	駅伝部コーチ・茅野東部中学校		
コーチ	三代澤芳男	普及強化委員会会計・松本蟻ヶ崎高校		
コーチ	伊藤秀充	駅伝部コーチ・松島中学校		
トレーナー	秋山友彦	駅伝部トレーナー・あきやま整骨院		
役員	北島正孝	参与 前駅伝部長・芝上建設(株)		
役員	百瀬 貴	専務理事 事務局長		
役員	瀧澤佳生	理事 記録部長・(株)クリエイティブヨーコ		



閉会式後の選手団(中央 阿部守一 知事、後列左二人目から 加藤浩 県観光スポーツ部長、山岸喜昭 県議会議長、萩原清 当協会会長 写真 長野陸協)

授与式次第

開式の辞 (進行)

1. 主催者挨拶 (萩原会長)
2. 日本陸連他受章者紹介
3. 県陸協栄章授与
4. 優秀選手章・奨励章表彰
5. 受章者代表挨拶

閉式の辞 (内山会長代行)

期 日 2025年2月9日(日)
 会 場 ホテルモンターニュ松本
 授与式 午前11時～
 祝賀会 午後12時30分～

祝賀会次第

開会の辞 (進行)

1. 主催者挨拶 萩原 清 会長
2. 受章者紹介 百瀬 貴 専務理事
3. 駅伝優勝報告 内山了治 団長
2025年特別賞授与
4. 祝辞

長野県知事 阿部守一様
 信濃毎日新聞社 代表取締役社長
 小坂 壮太郎 様

5. 乾杯
信越放送(株) 常務取締役
水澤 文一 様
… 祝 宴 テーブルスピーチ他 …
6. 中締め
在広島信州県人会 会長
名取 悦朗 様

閉会の辞 小林 高茂 副会長



2024年度 各栄章に輝いた皆様(敬称略)

公益財団法人日本陸上競技連盟(2023年度)

- 高校優秀指導者章 小林 幸太郎
- 中学優秀指導者章 内山 良一
- 高校優秀選手章 永原 颯磨(佐久長聖高3)
- 中学優秀選手章 櫻井 音寧(緑ヶ丘中3)
- 2024年度少年少女陸上競技指導者表彰 鳥羽 一彦

公益財団法人日本スポーツ協会(2023年度)

公認スポーツ指導者等表彰 優秀選手育成賞 下條 正紀

東海陸上競技協会表彰

西片 功 穂谷 守夫 由井 正巳 増田 喜代志

長野県 知事表彰 細田 完二

公益財団法人長野県スポーツ協会

有功章 玉城 良二

一般財団法人長野陸上競技協会(支部)

- 審判員功労章 田澤 稔(松本)
- 審判員功績章 澤上 尚(飯伊)
- 指導者功績章 松下 善幸(飯伊) 吉田 幹弘(上伊那)
- 片平 真理子(長野市)

地域スポーツ振興章

大村 一(塩尻) 久保田 昭雄(中高)

特別賞(2024年の活躍)

- 天皇盃第29回全国都道府県対抗男子駅伝 優勝 永原 颯磨(順天堂大I) U20世界陸上3000mSC 5位 佐久長聖高等学校陸上部 全国高校男子総合準優勝 佐久長聖高等学校 男子75回全国高校駅伝 優勝 長野東高等学校 女子36回全国高校駅伝 優勝



都道府県対抗男子駅伝
長野県選手団の皆様

天皇盃第30回全国都道府県対抗
男子駅伝競走大会

大会初4連覇、11度目の優勝
おめでとうございます

天皇盃第30回全国都道府県対抗男子駅伝競走大会において、長野県チームが大会初4連覇、通算11度目の優勝を大会新記録で成し遂げられました。選手、監督、コーチ、役員の皆様、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

プレッシャーを力に変え、昨年末の全国高校駅伝大会で優勝した佐久長聖高校の勢いと、各年代での選手層の厚さを武器に襷をつないだ姿は、私たちに大きな感動と誇りをもたらしてくれました。

「ここまで歴史を作ってくれた多くの方々のおかげ」との監督の言葉がありましたが、これまでの経験を活かした着実なチーム作りと常に優勝を目指す周到な準備が、選手の皆さんの走りに表れていました。

大会初の4連覇は快挙であり、新たな歴史を刻み、「駅伝王国長野」を全国に響かせてくれたことを大変うれしく思います。

また、「在広島信州県人会」の皆様をはじめ、全国各地から広島の地に集まり、大きな声援を送ってくださったたくさんの方々に、心から感謝申し上げます。

選手の皆様には、今大会の経験を胸に、それぞれの舞台での更なるご活躍を祈念申し上げます。そして、来年の大会でも、素晴らしい走りを披露していただけることを期待しています。

令和7年1月20日
長野県知事 阿部 奇一



お祝いの言葉

信濃毎日新聞社代表取締役社長

小坂 壮太郎

この度の天皇盃第30回全国都道府県対抗男子駅伝での長野県チームの優勝を心よりお祝い申し上げます。大会史上初の4連覇、最多11回目の優勝、さらに29回大会で自ら更新した大会記録を5秒短縮しての新記録と、昨年末の全国高校駅伝での佐久長聖・長野東の男女優勝に続くビッグニュースに、長野県民の一人として誇りに思います。

今年のチームは全国トップクラスの実力を持つ大学生・高校生に加え、中学生も近年にないレベルの高さで、オーダーを決めるのに「最後まで悩んだ」と高見沢監督がおっしゃっていたように、4連覇へ向けて盤石の体制が整っていたと思います。レースでは実力を遺憾なく発揮できた選手、十分に発揮できなかった選手がいるのが常ですが、長野県チームは選手全員がお互いに補完しあってチームの結果を出すことができる「駅伝力」が高いと高見沢監督はおっしゃっています。社会人・大学生選手の人間性や競技に取り組む姿勢を高校生選手が学び、高校生選手の大活躍に中学生選手が刺激を受け、そうしたリレーが脈々と続いていることが長野県チームの「駅伝力」の源泉で、毎年優勝を目標とする意識の高いチームが作られているのだと感じます。

信濃毎日新聞社は、「駅伝王国・長野」の伝統を受け継がれていくよう、主催する県縦断駅伝競走や春の高校伊那駅伝などを通じてさらに応援していく所存です。県陸上競技協会ほか関係者の皆さまの日ごろのご努力に敬意を表するとともに、長野県チームの勝利が今後も続いていくことを期待し、お祝いの言葉といたします。



お祝いのことば

公益財団法人
長野県スポーツ協会

理事長 北村 正博

天皇盃 第30回全国都道府県対抗男子駅伝競走大会において、優勝された長野県チームの皆様、誠におめでとうございます。

昨年長野県チームが出した大会記録を更新し、大会新記録で大会最多11度目の優勝を飾るといふ快挙は、多くの長野県関係者に大きな感動を与えていただくとともに、「駅伝王国長野」の名を引き続き全国に知らしめたものと存じます。

今回のレースは、全国高等学校駅伝競走大会で優勝した佐久長聖高校の選手をはじめ、中学生・大学生が心を一につい、貫禄の4連覇、見事11度目の優勝を果たすという長野県チームらしい圧倒的な総合力による会心のたすきリレーでした。

2028年に長野県で開催する第82回国民スポーツ大会での天皇杯、皇后杯獲得をめざし、日々努力を重ねている本県アスリートの皆様には、大きな勇気、パワーを与えたことと思います。

長野県チームの皆様には、今後優勝を積み重ねられ、全国の長野県関係者に希望や勇気を与えてくれることをご祈念申し上げます、お祝いのことばとします。



1区濱口 7区伊藤 写真 長野陸協

V11

胴上げ写真 中国新聞社提供



集合写真 長野陸協

4大会連続 11回目の優勝

記録 2時間16分55秒(大会新)

- 最優秀選手章 佐々木 哲
- 区間賞 1区 濱口 大和
- 5区 佐々木 哲(区間新)
- 優秀監督賞 高見澤 勝
- 優秀コーチ賞 牛山 通高 宮入 修一

【総合成績】

5位 埼玉 2:18:20	6位 佐賀 2:18:25
2位 千葉 2:17:39	7位 福岡 2:18:57
3位 福島 2:18:02	8位 京都 2:18:58
4位 広島 2:18:12	

区間(距離km)	第1区(7.0)	第2区(3.0)	第3区(8.5)	第4区(5.0)	第5区(8.5)	第6区(3.0)	第7区(13.0)
選手名	濱口 大和	増田 大誠	吉岡 大翔	石川 浩輝	佐々木 哲	中澤 侑己	伊藤 大志
チーム順位・記録	1 19:33	1 28:23	7 52:45	4 1:06:57	1 1:30:29	1 1:39:08	1 2:16:55
区間順位・記録	① 19:33	⑳ 8:50	㉑ 24:22	③ 14:12	① 新23:32	③ 8:39	⑭ 37:47
区間最高記録	19:33	8:21	23:36	14:05	新23:32	8:36	36:58
Top通過チーム同記録	長野 19:33	長野 28:23	福島 52:21	福島 1:06:31	長野 1:30:29	長野 1:39:08	長野 新 2:16:55